



クラフトマン21 成果報告会

県内企業363社が高校生を指導

県内の高校生を対象に、ものづくり分野の人材育成に取り組む「クラフトマン21事業」の成果報告会が1月15日、仙台市青葉区のホテル白萩で行われ、生徒らが本年度の取り組みの成果を披露した。

高校生や企業関係者ら100人以上が参加。県内の工業系高校14校の生徒と教員が本年度、熟練技能者らの指導を受け、資格取得につながった実績などについて、報告した＝写真＝。

そのうち古川工業高定時制機械科3年の高橋涼君は、材料費や工具などの支援を受けながら県内の高校生として初めて、平面研削盤作業3級機械加工技能士を取得したことを発表。「教えられた加工条件だけでなく、自分で最適な加工条件を究めることが技能士としての第一歩だ、ということを学んだ」と話していた。

みやぎ工業会によると、本年度、クラフトマン事業で実施したプログラムは207。協力した企業・団体は363社、指導を受けた生徒と教員はのべ5485人にのぼり、いずれも昨年度を上回った。

県工業高SPP報告会

生徒が独自の研究成果を披露

県工業高の生徒が1月27日、震災復興や防災に関連する研究成果を仙台市青葉区のせんだいメディアテークで発表した。

報告会には、化学工業科の生徒約120人が参加。3つのグループが、それぞれの研究テーマごとに英語を交え発表した＝写真＝。

そのうち、広瀬川の水を使って藻を育て、オイルを取り出す実証研究に取り組んだグループの門馬空哉君は「生産効率を高めるなどして、地元の水を使った新エネルギーの開発を進めたい」と語った。

発表を受けて、東北大学の折茂慎一教授（先端材料）は、「LEDや有機ELなど最先端の研究を融合させた内容だ。車一台を動かすにはどれくらい藻が必要などの観点も入れると面白くなる」とアドバイスをした。

研究は、文部科学省の「サイエンス・パートナーシップ・プログラム」(SPP)の一環。大学や研究機関などの支援を受けて、2011年度から化学工業科の生徒が中心となり研究を続けている。

仙台市科学館で親子理科授業体験

実社会との結びつき実感

「親子理科授業体験」が1月25日、仙台市青葉区のスリーエム仙台市科学館であり、社会人講師が工夫を凝らした実験を披露した。

県内の小学校高学年を対象に実施している「理科特別授業」の取り組みの一環で、宮城県などが主催。5つの授業に親子50組が参加した。

そのうち、地質調査などを手掛ける応用地質東北支社（仙台市宮城野区）は「土の大きなやくわり？」をテーマに授業を実施。砂や砂利を入れた容器に泥水を入れる実験などを通して、参加した親子が土の持つはたらきを確かめた＝写真＝。

参加した、古川第二小5年の高橋優和君は「泥水がきれいになっておもしろかった。人間にとって、土はなくてはならないものだとわかった」と話していた。



みやぎ高校生フォーラム

志教育の取り組み発表

「みやぎ高校生フォーラム」が2月8日、県庁講堂であり、県内各地の高校生が志教育の取り組みを発表した。約200人が参加。国際交流や地域貢献活動の発表が行われたほか、ことし11月に開かれる「全国産業教育フェア宮城大会」(さんフェア)のPRやパネルディスカッションなども行われた＝写真＝。

そのうち、地域貢献活動の発表で、多賀城高の生徒は、多賀城市内など、約900カ所に津波の波高標識を設置した活動などについて報告。さんフェア実行委員長の瀬川登志也君（仙台商業高2年）は「大会の成功には、宮城の高校生の力が必要です」と集まった生徒たちに協力を呼びかけた。

